

④7 淡路市新火葬場整備事業

受賞機関 淡路市

キーワード 減築を見据えた一部木造の火葬場、地域資源の活用、淡路のこころを左官で表現した特殊左官仕上げ、レインガーデン

全建賞審査委員会の評価ポイント

老朽化した市内4施設を集約し、淡路市に新たな火葬場を整備。左官職人・久住有生氏による特殊左官仕上げを採用し、自然に囲まれた安らぎの空間を創出した。スカイラインを創出する勾配屋根による周辺の山並みとの調和、火葬エリアを鉄筋コンクリート造とする一方、待合エリアを木造とし、構造形式を分けることで、将来的な火葬件数の減少に応じた減築が可能となる構造計画とした点が評価された。

1. はじめに

淡路市では、平成17年の旧5町（津名町、淡路町、北淡町、一宮町、東浦町）合併以降、市内で稼働していた4つの火葬場が老朽化し、設備の更新が急務となっていた。また、ダイオキシシン類削減対策指針への対応も求められる中、人口約43,000人に対して火葬場が過剰な状態であったことから、これらの施設を1か所に集約する「淡路市新火葬場整備事業」を計画した。

本事業では、地域資源を活用しつつ、合理性と景観に配慮し、地域住民に安心感と快適さをもたらす新たな火葬場を完成させた。

2. 事業の概要

合併前に建設され、老朽化していた4つの火葬場を統合し、最新基準に適合する火葬炉設備を備えた新たな火葬場を建設した。

建物の構造は、将来の人口減少に伴う火葬件数の減少を見据え、鉄筋コンクリート造（火葬エリア）と木造（待合エリア）を組み合わせる柔軟な計画とした。

また、本事業では自然と共生するデザインにこだわった。敷地北側に建物と駐車場を配置し、南側には山林と調和するレインガーデンを設けた。併せて、火葬場までのアクセス道路工事で生じた真砂土をエントランスホールの特殊左官仕上げに使用し、淡路の自然を表現した。

3. 事業の成果

火葬エリアを鉄筋コンクリート造、待合エリアを木造とすることで、将来の火葬件数の減少に応じた規模の見直しや減築を可能とした。

また、建物外観については、待合棟から火葬棟にかけて緩やかな勾配屋根を連続させることで、周辺の山並みと調和し、訪れる人々に落ち着きをもたらすスカイラインを創出した。

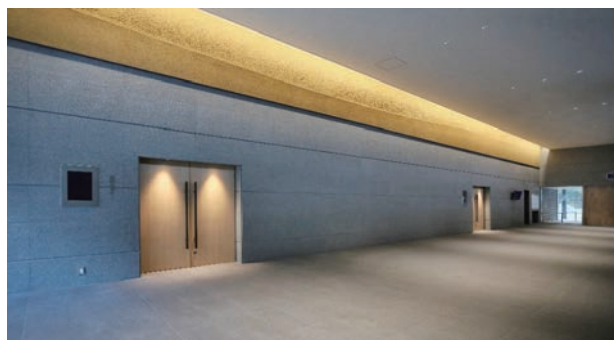
レインガーデンは、「国生みの神話」をモチーフに、

雨水流出抑制機能を持つ庭園として、故人を見送る方々に静かで穏やかな空間を提供している。



レインガーデンからの外観

さらに、エントランスホールの壁面には、淡路市出身の左官職人・久住有生氏による淡路の真砂土を使用した特殊左官仕上げを採用し、この仕上げにより、故人が故郷の自然に包まれながら安らかに眠ることができる空間を実現した。



特殊左官仕上げのエントランス

4. おわりに

本事業は、老朽化した火葬場を集約し、地域資源を活用しながら合理性と景観に配慮した施設整備を行うことで、住民に寄り添った新たな火葬場を実現した。将来の減築を見据えた構造計画や環境との共生を重視した取組であり、持続可能な公共施設整備のモデルケースとなることが期待される。

本事業の整備に当たり、地元町内会をはじめ、多くの皆さまにご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。